NEWS
The Kagawa Museum

vol.58
香川県立ミュージアム
ニュース
2022　秋号

Contents

特集
特別展「風景が物語る瀬戸内の力
―自然・歴史・人の共鳴―」

ここにも注目！ 特別展関連企画
調査研究ノート vol.44
「高松松平家博物図譜」の調査研究　これまでとこれから
展示室だより
瀬戸内の風物 ― 島・港・くらし

トピック
第86回香川県美術展覧会 ― シン・ケンテンへの道

ミュージアムガイダンス vol.46
5年ぶりの新収蔵品展 ― こんなもの集まりました！！

れきみんだより
海中での漁の様子を伝える漁具模型

瀬戸内海航路図屏風

江戸時代前期　堺市博物館蔵

本屏風は、瀬戸内海とそれをとりまく陸地を描いた図である。東は大坂から西は小倉に至る瀬戸内海域を一図とする。航路が海上に記され、海には島々、陸地には城郭や国境、集落が描かれる。下方には、大坂から小倉までの、湊から湊への里程（距離）や風向きなどの情報が詳しく記され、有用な航路図であったことをうかがい知ることができる。

知らなかった瀬戸内海が今ここに。初めて見つける瀬戸内のすがた。

瀬戸内国際芸術祭2022参加

特別展 風景が物語る瀬戸内の力 ―自然・歴史・人の共鳴―

図1

この秋、瀬戸内海をメインテーマにした特別展を開催します。瀬戸内海は、日本最大の内海（ないかい）として、本州、四国、九州にある11府県の沿岸によって囲まれ、その海岸線の距離は7,230㎞※（香川―ハワイの直線距離に相当）にも及び、内海に浮かぶ島々は700以上あります。古くからこの風景は人々を魅了し、自然が創り出した風景、時代を写しとった風景、暮らしの風景、理想化された風景などとして、様々に描かれてきました。

本展は瀬戸内国際芸術祭2022秋会期に参加しています。関西、中四国の30件以上の所蔵者のご協力を得て、テーマに沿って厳選された約100点の資料・作品を紹介します。各地の瀬戸内海の姿を表した作品が一堂に会し、歴史、民俗、美術、自然など、これまでにない多面的な視点から瀬戸内海の魅力をひも解きます。

※出典「瀬戸内海の概況」
環境省 せとうちネット　https://www.env.go.jp/water/heisa/heisa_net/setouchiNet/seto/g2/g2cat01/index.html

描かれた瀬戸内

その特色のひとつは花崗岩などにより形づくられた巨石・奇岩や白砂青松（はくしゃせいしょう）、あるいは瀬戸と灘、潮流、干満、島々などが織りなす自然の姿です。また、古代より大陸への大動脈であった瀬戸内海は、源平合戦や交易船が行き交う歴史の舞台ともなり、航行する北前船（きたまえぶね）や漁撈（ぎょろう）を営む人々、塩田（えんでん）で働く人々なども生き生きと捉（とら）えられ、歴史の一場面や暮らしの実景として描かれてきました。さらに瀬戸内の風景は、物語の場面や寺社縁起絵、名所絵として壮麗に昇華され、理想化された景観としても描かれました。

昭和9年（1934）、瀬戸内海は日本で最初の「国立公園」に指定されましたが、その特徴は手つかずの自然や雄大な自然景だけでなく、多島海などの豊かな自然に、人々が積み重ねた歴史や暮らしが溶け込んだ自然景と人文景が共鳴した風景といえるでしょう。

〈ユートピア〉〈自然〉〈生活〉〈名所〉〈近現代そして未来〉の5つのテーマをもとに、描かれた風景が物語る瀬戸内の力を再発見し、未来に向けて残し伝えていくべき景観や人との関係性について考えます。

（主任専門学芸員　窪美 酉嘉子）

図2

図3

図4

図5

一の景　ユートピア

物語や歌枕、寺社縁起絵には、しばしば瀬戸内が現れます。都人のひとつのユートピア（=理想郷）としてイメージが作られました。王朝美の代表格「源氏物語」の主人公 光源氏も一時期、都を離れ、瀬戸内の寒村に住まう姿が映し出されます。（図1）

二の景　自 然

穏やかなイメージが定着している瀬戸内も、その地質・地形、海象の特徴から様々な表情を見せ、私たちは特有の自然を再発見するでしょう。かつて瀬戸内海には海獺（かいだつ）（ニホンアシカ）の姿もありました。（図2・3・4）

三の景　生 活

瀬戸内には港があり、城もあり、村もあります。海を舞台に漁業などの仕事をする人々、沿岸部で塩を作る人々、島の畑で働く人々、町で暮らす人々など、瀬戸内の風土に生きる人々の姿を探ります。（図5・6）

四の景　名 所

自然と人々の暮らしがあいまって、“訪れてみたい”“訪れることができる”〈名所〉が生まれました。瀬戸内各地の様子に注目します。

五の景　近現代そして未来

近代以降、絵師や画家の個性が重視され、表現や技法、画材も多様化し、瀬戸内の風景もさらに様々な姿を現します。
「世界の宝石」と謳われる美しさだけでなく、自然の脅威もひとつの姿であり、また人々の希望を乗せた未来の姿や空想の瀬戸内も描かれます。（図7・8）

図1　「須磨一」（重要文化財 土佐光吉「源氏物語手鑑」より）　江戸時代
　　和泉市久保惣記念美術館蔵
図2　「南海奇勝之図　五劍峯」（淵上旭江「五畿七道図」より）　寛政8年（1796）
　　岡山県立美術館蔵
図3　「阿波ナル戸図」（西丈「中国四国名所旧跡図」より）　江戸時代
　　愛媛県歴史文化博物館蔵
図4　「海獺之図」（堀惟賢「網代日記」より）　天保5年（1834）　個人蔵
図5　「網入之図其三」（堀惟賢「網代日記」より）
図6　大阪市指定有形文化財「川口遊里図屏風」　江戸時代前期　大阪歴史博物館蔵
図7　小野竹喬「海島」大正9年（1920）　笠岡市立竹喬美術館蔵
図8　西田眞人「倒壊（下絵）」平成7年（1995）　神戸ゆかりの美術館蔵

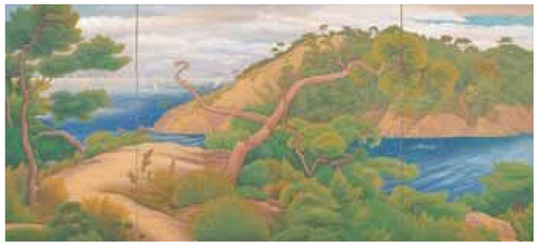


図7

図8

現在、制作中の作品も!!

香川県立高松工芸高等学校美術科の生徒たちが、彼らの遺したい瀬戸内の姿を、未来への願いを託して制作しています。

制作の様子

特 別 展 情 報

秋の特別展
風景が物語る瀬戸内の力 ―自然・歴史・人の共鳴―

会　　期：9月23日（金・祝）～11月6日（日）
会　　場：特別展示室、常設展示室4・5
開館時間：9:00～17:00　会期中の土曜日は～20:00
　　（入館は閉館の30分前まで）
休 館 日：月曜日（10/10（月・祝）は開館、10/11（火）は休館）
観 覧 料：1,200円、前売・団体（20名以上）1,000円
　　瀬戸内国際芸術祭2022パスポート提示で団体料金（9/29～11/6）
　　高校生以下、65歳以上、障害者手帳をお持ちの方は無料

関連イベントは巻末インフォメーションをご覧ください。

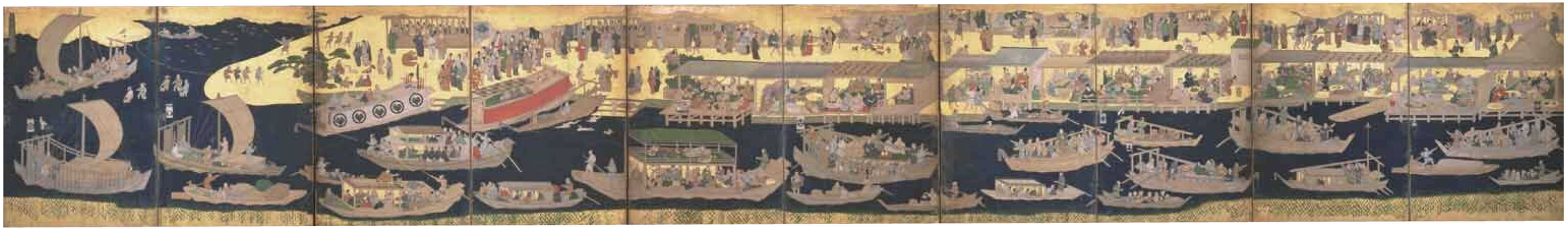


図6

Look ここにも注目!

特別展関連企画
「風景が物語る瀬戸内の力」
とあわせて、楽しむ・知る“瀬戸内”

調査研究ノートvol.44

「高松松平家博物図譜」の調査研究　これまでとこれから

スナメリ
（香川県指定有形文化財「衆鱗図」より）
高松松平家歴史資料

高松藩5代藩主松平頼恭（1711〜71）の命により18世紀後半に完成した「博物図譜」は、魚類の「衆鱗図」4帖、植物の「衆芳画譜」4帖・「写生画帖」3帖、鳥類の「衆禽画譜」2帖の、4種13帖からなります。描かれた図の総数は2,141にものぼり、その精巧な描かれ方、色彩の豊かさは、同時代の博物図譜の中でも群を抜いています。その制作には平賀源内（1728〜79）が関わっているとされ、絵師については讃岐の三木文柳とする説がありますが、具体的な成立背景や制作過程は十分に解明されていません。これらの謎を解き明かすには、自然系・人文系に偏らない総合的な研究が必要ですが、ここでは、博物図譜の近年の自然科学分野からの調査成果、今後の展望について紹介します。

近年の自然科学分野からの調査成果

平成16年（2004）に高松市で開催された「第24回 全国豊かな海づくり大会」で、天皇皇后（現 上皇上皇后）両陛下が「衆鱗図」をご覧になり、生物学的研究が望まれる旨のお言葉がありました。それを受け、平成16〜17年、「衆鱗図」4帖の図について、故 上野輝彌氏（国立科学博物館名誉研究員）らによる同定作業が行われ、『衆鱗図 研究編』が刊行されました（平成17年11月20日）。そして、平成30〜令和元（2019）年度には、「衆芳画譜」4帖の図について、大場秀章氏（東京大学名誉教授）らによる同定作業が行われ、『衆芳画譜 研究編』が刊行されました（令和3年3月25日）。

また、平成28〜令和元年度には、秋山純子氏（当時 九州国立博物館、現 東京文化財研究所）の協力のもと、博物図譜の一部について、九州国立博物館へ資料を輸送あるいは当館へ機材を持ち込み、彩色材料の科学調査を行いました。本調査では、赤外線撮影で面的な特徴を捉え、蛍光X線分析による元素の把握、可視反射分光分析による染料の分析を行いました。

本調査で、赤外線画像の濃淡から彩色材料の顔料・染料※を見分けることができ、「衆鱗図」と「衆禽画譜」では顔料が多く使用され、植物が描かれる「衆芳画譜」「写生画帖」では染料が多く使用されていることが分かりました。同じ色でも、実際の動植物の色に少しでも近づけるため、顔料・染料を使い分けているものと考えられます。

「衆芳画譜　花弁　第四」（表20）

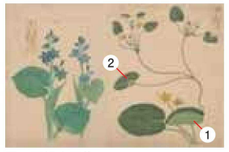


図1 可視光画像

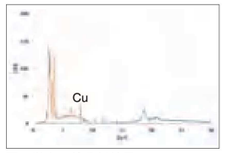


図3 蛍光X 線分析結果
（測定箇所 図1-①）

図2 赤外線画像

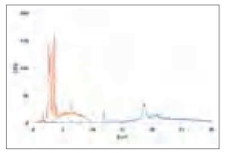


図4 蛍光X 線分析結果
（測定箇所 図1-②）

赤外線画像で黒く写る①の箇所は銅（Cu）を主成分とする顔料、白く写る②の箇所は染料で彩色されていると考えられる。

彩色材料調査の結果は、秋山純子氏提供

今後の展望

現在、「写生画帖」の同定作業が進められており、その研究編も刊行される予定です。

これまでに、様々な方面からの調査を進めていますが、「高松松平家博物図譜」には、材料、技法、絵師、成立背景など、まだまだ多くの謎があります。今後も、総合的な研究を進めて、本図譜の歴史的・文化的な価値を明らかにし、より多くの方に、その魅力を伝えていきたいと考えています。

今回、特別展「風景が物語る瀬戸内の力」の関連企画として、研究編を刊行した「衆鱗図」「衆芳画譜」について、同定の成果をもとに、当時瀬戸内の自然の中にも目にすることができたであろう魚類や植物の姿を紹介します。

（専門学芸員　髙木 敬子）

※顔料：水に溶けない性質の色料。
　染料：水に溶ける性質の色料。

展覧会情報

瀬戸内泰平―「博物図譜」にみる山野海のめぐみ
常設展示室1
9月23日（金・祝）〜11月6日（日）

ミュージアムトーク
10月8日（土）、10月29日（土）　各13:30〜

展示室だより　常設展示室2

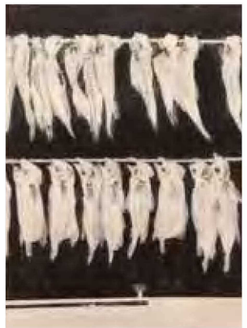
瀬戸内の風物―島・港・くらし

9月23日（金・祝）〜11月6日（日）

香川県出身の紙版画家 井上員男（1932〜）の作品から瀬戸内の風物を紹介します。井上は昭和49年（1974）から52年まで、各地を取材し、「四国の漁港より」や「瀬戸内シリーズ」といった瀬戸内海の港や瀬戸内の風物をモチーフにした版画を制作しました。漁で取れたカレイを干す港の一隅や漁船が集まる港、港によって栄えた町などの風景が見いだされます。紙版画特有のモノクロームで表される風景は、瀬戸内の湿気や優しい波音を伝え、また港町に見る焼き板塀やナマコ壁、それらを照り返す明るい陽射しまでも思い起こさせます。

ぜひ、どこか懐かしく安らぎを覚える瀬戸内の姿をお楽しみください。

（主任専門学芸員　窪美 酉嘉子）



井上員男　四国の漁港より「魚を干す」
昭和49年（1974）　当館蔵

井上員男　瀬戸内シリーズより「百島」
昭和51年（1976）　当館蔵

関連イベント

ミュージアムトーク
10月1日（土）、11月3日（木・祝）　各13:30〜

Topic トピック

第86回香川県美術展覧会―シン・ケンテンへの道

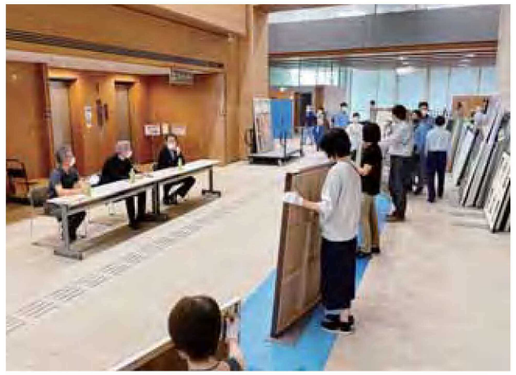
「つくる人もみる人も、より豊かな展覧会に」。このキャッチフレーズを使い始めて3回目を迎えました。これまでの県展の長い歴史の中で、県展のあり方はその都度見直されてきていますが、平成から令和にかけて、時代に即した県展のあり方を模索し、4年が経過しました。この間、様々な取り組みが行われてきましたが、出品規定を見直して屋外展示を可能とするとともに、第86回展では、昨今の多様な表現に呼応して日本画と洋画を絵画部門として統合しました。

その結果、部門の枠に収まらない表現にトライした作品が出品されました。特に彫刻（立体表現）部門にその傾向が強く見られ、屋外の親水施設に作品を設置したり、絵画を立体的に構成した作品が出品されたりしました。

また、鑑査及び審査については今後の公開審査を想定して実施し、会期中には審査の映像を会場やSNSで公開しました。ご覧になった方からは「分かりやすかった」と好評でした。

今後も、より豊かな展覧会をめざし、新たな取り組みを続けていきます。

（主任専門職員　櫻木 拓）



絵画部門の審査の様子

ミュージアムガイダンスvol.46

5年ぶりの新収蔵品展
―こんなもの集まりました!!

香川県立ミュージアムでは、県内の地域や人びとにゆかりのある資料・作品を収蔵しています。これらの収蔵資料・作品をもとに調査研究をすることで香川県の歴史や文化の一端を明らかにし、その成果を展示や学芸講座などの形で広く発信することが当館の役割のひとつです。

資料や作品は現在の社会に関わっていると考えられます。資料や作品をもとに研究を行うことで、現在の社会の成り立ちや、受け継がれてきた文化のルーツを知ることができるでしょう。私たちが過去から何かを受け継いだり、あるいは新しい何かを生み出したりするためにも、過去の人々が残してきた資料や作品はとても重要なのです。

平成20年(2008)に香川県歴史博物館と香川県文化会館が統合して誕生した香川県立ミュージアムには、旧歴史博物館が収集してきた歴史・民俗・古美術の資料と、文化会館が収集してきた美術作品やそれにまつわる資料が収蔵されています。歴史博物館機能と美術館機能をあわせ持つことになった当館は、歴史資料と美術資料・作品の収集を行い、さらなるコレクションの充実を図っています。現在までに、当館には30万点以上の資料・作品が収蔵されてきました。

収蔵された資料・作品は公開のほか様々な方法で活用されますが、まず収蔵の成果を知っていただくために開催するのが「新収蔵品展」です。この新収蔵品展が行われるのは実に5年ぶりのことです。

今回の新収蔵品展では、平成27年度以降に収蔵した資料・作品のうち、未公開のものを中心に紹介します。江戸時代から現代に至るまでの古文書・絵図・写真や生活道具などの歴史資料、絵画や工芸などの美術作品、作品に関する資料といった幅広いジャンルの資料・作品を取り上げます。

新収蔵品展は、歴史・美術などのジャンルや年代を問わず、様々な資料や作品を一堂にご覧いただける貴重な機会です。前回の新収蔵品展に来られた方も、初めての方も、ぜひミュージアムの新しい仲間を見に来てください。

この新収蔵品展が、収蔵されている資料や作品に興味を持っていただくきっかけになればと思います。

(学芸員　芝野 有純)

青峰重倫「孵化」　昭和26年(1951)

四斗瓶　大正～昭和時代

松平頼重和歌書　江戸時代

展覧会情報

新収蔵品展
常設展示室4・5
11月15日(火)～12月18日(日)
ミュージアムトーク
11月23日(水・祝)、12月4日(日)　各13:30～

これからの香川県立ミュージアム常設展

高松藩主松平頼重生誕400年記念展Ⅱ
頼重と寺社
常設展示室1
11月12日(土)～令和5年1月29日(日)
ミュージアムトーク
11月19日(土)、12月11日(日)　各13:30～

20世紀の美術－フランス絵画名品選
常設展示室2
11月8日(火)～令和5年2月12日(日)
ミュージアムトーク
12月10日(土)、令和5年1月22日(日)　各13:30～

海中での漁の様子を伝える漁具模型

漁具模型の展示状況

当館では、現在も香川県で使われている大型の漁具である、桝網(ますあみ)、込し(こま)網、底びき網、ノリ養殖の漁具模型4点を展示しています。

この漁具模型は平成16年(2004)に高松市で開催された第24回全国豊かな海づくり大会のテーマ館で展示したもので、香川県の水産業を県内外の来館者に紹介するため、県内の漁業を代表するものとして作られました。小型の漁具は実物展示が可能ですが、数10m以上におよぶ大型の漁具を展示するのは困難なため、漁具に詳しい香川県水産課OBの方に依頼して1.8m×0.9m又は0.9m×0.9mの板に載る大きさに縮小して製作していただき、展示しました。

海づくり大会後は、水産課から庵治町(現高松市)に貸し出し、小学校などで活用を図っていましたが、一部が壊れたりして最近は活用頻度が低下していました。

大型の漁具の展示が困難であるのは当館も同様で、展示資料は小型の漁具が多く、大型の漁具は浮子(あば)や沈子(ちんし)などの漁具の一部や図などでの説明となっています。しかし、漁業は海で行われているので見る機会は少なく、さらに漁具は海中にあって船上からもどのように展開しているのか分かりにくいものがほとんどです。図だけではイメージしにくく、大型の漁具の理解を深めてもらうためにはこのような模型が必要でした。

そこで、関係者と協議し、これらの漁具模型を当館に収蔵することになり、現在第1展示室で展示しています。展示にあたっては、修復を行うとともに、操業時の風景や主な漁獲物の写真や映像も説明資料として掲示・放映して、漁の様子が分かるようにし、いつでも見ていただくことができるようになりました。

桝網 ～香川発の仕掛け網～

桝網とは小型定置網の一種で、魚の通り道をさえぎるように数か月の間、漁具を設置して、魚が迷いこんだところをとる漁業です。

香川県では江戸時代から行われていたと考えられ、明治以降の資料をみると、だんだんと漁具の改良が図られてきたことが分かります。その改良の一つに箱網付き桝網があります。それ以前の桝網に箱網を付けたのが特徴で、当時高級魚だったボラが飛び出さないように天井網を付けるなど、入った魚を逃げにくくするための仕掛けです。昭和30年(1955)津田町(現さぬき市)の平野禧一(きいち)氏が開発したもので、県内はもとより、県外にも普及し、現在も活躍しています。

香川県の漁業史の一部分ですが、模型を見ていただくことで、漁業者の知恵や工夫の一端を知っていただければ幸いです。

(瀬戸内海歴史民俗資料館　主任　川西 敦)

箱網付き桝網の模型

INFORMATION［2022.9―2022.11］

特別展「風景が物語る瀬戸内の力―自然・歴史・人の共鳴―」関連イベント

◎講演会・学芸講座

すべて　無料・要事前申込

会　　場：地下1階 講堂
定　　員：100名（先着順）

1. 講演会「大地の成り立ちからみた瀬戸内の風景」

瀬戸内海は低い陸地に海が入ってできた天然の生け簀です。大地の成り立ちから、瀬戸内海の独特な風景の成り立ちを見直してみませんか？

日　　時：10月2日（日）13：30～15：00
講　　師：長谷川修一氏（香川大学特任教授・名誉教授）
申込期間：9月2日（金）～、定員になり次第終了

2. 講演会「くらしが紡ぐ瀬戸内の風景」

自然と人との関わりを示す作品を道しるべとしながら、「瀬戸内らしさ」とはいったいどういった点にあるのか、探ります。

日　　時：10月23日（日）13：30～15：00
講　　師：上杉和央氏（京都府立大学准教授）
申込期間：9月23日（金・祝）～、定員になり次第終了

3. 学芸講座「瀬戸内を旅する」

江戸時代の旅の目的の一つは金毘羅参りなどの寺社参詣でした。江戸時代の旅人の日記を用いて、当時の瀬戸内海を旅します。

日　　時：9月25日（日）13：30～15：00
講　　師：川邉優佑（当館学芸員）
申込期間：8月25日（木）～、定員になり次第終了

4. 学芸講座「画家たちが眺めた瀬戸内海」

明治44年（1911）に画家たちが小豆島に遊んだ旅をまとめた旅行記「十人写生旅行」をひも解き、近代に描かれた瀬戸内の絵画とその魅力を紹介します。

日　　時：10月15日（土）13：30～15：00
講　　師：窪美酉嘉子（当館主任専門学芸員）
申込期間：9月15日（木）～、定員になり次第終了

5. 学芸講座「讃岐十景と讃岐百景」

「讃岐十景」や「讃岐百景」などから、昭和前半期の香川県における風景認識と観光化について紹介します。

日　　時：10月30日（日）13：30～15：00
講　　師：田井静明（瀬戸内海歴史民俗資料館専門職員）
申込期間：9月30日（金）～、定員になり次第終了

講演会・学芸講座の申込方法

電話、はがき、FAX、「かがわ電子自治体システム」(※)を利用したインターネットから。はがき、FAXの場合は氏名、電話番号、講演会・学芸講座の名称を明記してください。

申込先：〒760-0030　高松市玉藻町5番5号　香川県立ミュージアム学芸課
TEL. 087-822-0247　FAX. 087-822-0049

※「かがわ電子自治体システム」を利用する場合

香川県立ミュージアムホームページ右下の**「関連リンク」**から**「【香川県】電子申請のページへ」**をクリックしてください。

カフェポット ミュゼ

くつろぎのひとときに、カフェポットミュゼをご利用ください。
営業時間：9：00～17：00
（オーダーストップ 16：30）

ミュージアムショップ

1階ミュージアムショップでは、当館オリジナルグッズも販売しております。
営業時間：9:00～17:00
夜間開館の日は9：00～20：00

◎ワークショップ

1. 瀬戸内ロックバランシング

有料・当日受付

瀬戸内を形成するいろんな種類の石をバランスよく積み上げてみよう！

日　　時：10月8日（土）、9日（日）、10日（月・祝）
　　10：00～12：00、13：00～16：00のいつでも
会　　場：2階西ロビー
参 加 料：100円

瀬戸内ロックバランシング（イメージ）

2. 屋島は物語る

有料・要事前申込

自然の景色や地形、歴史や人の営みについて解説を聞きながら、特別展で紹介する瀬戸内の風景を、実際に見て歩きます。

日　　時：10月22日（土）9：00～12：00
集合場所：屋島山上駐車場（現地集合・現地解散）
対　　象：高校生以上
コ ー ス：屋島山上駐車場→談古嶺→屋島北嶺（遊鶴亭）→やしまーる
講　　師：長谷川修一氏（香川大学特任教授・名誉教授）
参 加 料：500円　車でお越しの場合、別途駐車料金が必要
定　　員：20名（1組3名まで、申し込みが多い場合は抽選）
申込期間：9月23日（金・祝）～10月7日（金）必着

ワークショップ「屋島は物語る」の申込方法

往復はがき、「かがわ電子自治体システム」(※)を利用したインターネットから。1組3名まで申し込み可。往復はがきの場合は、氏名、住所、電話番号、ワークショップ名を明記してください。

申込先：〒760-0030　高松市玉藻町5番5号　香川県立ミュージアム学芸課

行ってきまーす

当館コレクションの館外貸し出し情報です。

○丸亀市立資料館「丸亀城と城下町」
10月15日（土）～11月23日（水・祝）：讃州圓亀城之図（写）

瀬戸内海歴史民俗資料館

瀬戸内ギャラリー　第7回企画展

◎「いにしによる」―断片たちの囁きに、耳を―

アーティスト、文化人類学者たちが地域住民と協働で展開している高松市塩江町の古民家、藤川邸「いにしによる」におけるプロジェクトを紹介します。

会　　期：10月1日（土）～12月18日（日）
会　　場：第1展示室中2階　瀬戸内ギャラリー
共　　催：一般社団法人トビカ

瀬戸内海歴史民俗資料館のイベント

◎れきみん講座「香川の主な漁業の歴史」

無料・要事前申込

かつては香川の主要漁業であったタイ漁業と、小エビやカレイなどの底魚をとる底びき網などを取り上げて、香川の漁業の歴史を紹介します。

日　　時：9月24日（土）
　　午前の部10：00～11：00　午後の部13：30～14：30
会　　場：研修室
講　　師：川西敦（瀬戸内海歴史民俗資料館主任）
定　　員：各14名（先着順）
申込期間：9月6日（火）～、定員になり次第終了

◎特別開館　夜のれきみんを楽しむ

無料・要事前申込

満月の夜、日本建築学会賞を受賞しているれきみん建築と屋上からの夜景をお楽しみください。

日　　時：10月8日（土）、9日（日）、10日（月・祝）　各17：15～20：00
会　　場：瀬戸内海歴史民俗資料館
定　　員：各50名（先着順）
申込期間：9月8日（木）～、定員になり次第終了

イベントの申込方法

電話または直接来館で。
申込の際に、氏名、電話番号、イベント名（日時）をお伝えください。

申込先：瀬戸内海歴史民俗資料館　TEL.087-881-4707

香川県立ミュージアム
〒760-0030 高松市玉藻町5番5号
TEL.087-822-0002（代表）　FAX.087-822-0043
https://www.pref.kagawa.lg.jp/kmuseum/kmuseum/index.html

【分館】**瀬戸内海歴史民俗資料館**
〒761-8001 高松市亀水町1412-2
TEL.087-881-4707　FAX.087-881-4784
https://www.pref.kagawa.lg.jp/kmuseum/setorekishi/index.html

【分館】**香川県文化会館**
〒760-0017 高松市番町1丁目10番39号
TEL.087-831-1806　FAX.087-831-1807
https://www.pref.kagawa.lg.jp/kmuseum/kmuseum/bunkakaikan/kfvn.html

日時・内容については変更になる場合があります。最新情報は当館ホームページをご覧ください。

●発行日 令和4年（2022）8月2日　●編集・発行 香川県立ミュージアム　●印刷 株式会社アイコー印刷